

院長あいさつ

院長 住友和弘医師



経歴

平成2年3月	北里大学衛生学部	卒業
平成8年3月	獨協医科大学	卒業
平成8年4月	旭川医科大学第一内科	入局
平成9年5月	名寄市立総合病院	第一内科
平成10年4月	市立土別総合病院	循環器内科
平成11年4月	医療法人清陵会藤井病院	内科
平成14年10月	医療法人社団進話会 旭川リハビリテーション病院	内科
平成16年8月	中頓別町国民健康保険病院	現在に至る

内科認定医、循環器専門医、認定産業医

旭川医科大学 循環呼吸医療再生フロンティア講座 客員講師

ごあいさつ

私たちが暮らす中頓別町は、札幌から北へ約300km、日本最北の宗谷岬から南に約100kmの所に位置し、酪農と林業が産業の人口2100人あまりの町です。高齢化率は33%、町民の約3人に1人は65歳以上になります。高齢化に伴い高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病と整形外科領域疾患の割合が大きくなっています。

私たちの医療は地域医療最前線そのままであり、医療スタッフの人的問題、財政問題、地理的条件、医療スタッフのトレーニング、住民教育など多くの問題を抱えています。これらと向き合い、私たちは患者様中心の医療であり住民に信頼と安心を提供、都会における標準的医療と看護の提供、地域センター病院との連携により地域完結型医療を目指していきます。

患者様から選ばれる病院にしたいと考え、平成16年10月に『住民本位』を柱にした病院理念作成のほか、院内でサービス向上委員会をつくり、職員の意識改革を図ってきました。1例を挙げれば、患者さんの呼び方を『さん』から『さま』にしました。呼び方を変えただけですが、慣れるにしたがって職員の接し方が柔らかく親切に感じると評価を受けています。入院生活が単調にならず、快適に過ごせるようクリスマス会の開催、待合室に図書コーナーの設置、病院菜園など、療養環境整備を職員一同が協力して行っています。

地域住民の健康意識向上と高血圧管理を目指した「町民森林ウォーキング」「森林療法ドック」を毎月開催し(5~10月冬期間休み)、町民の健康保健増進をリードしています。

私たちの地域医療への取り組みが地域医療最前線として広く発信できるようこれからも努力し続けて行きます。